

平成20年度 第6回佐渡市行政改革推進本部

1. 日 時 平成20年10月9日(木) 14:00~15:10

2. 場 所 佐渡市役所 会議棟 1階 第2会議室

3. 出席者 22人

本 部 員

市長(本部長)	高 野 宏 一 郎	
副市長(副本部長)	親 松 東 一	
副市長(副本部長)	甲 斐 元 也	
教育長	渡 辺 剛 忠	
総務部長	斉 藤 英 夫	
議会事務局長	池 昌 映	(代理出席)
会計管理者	本 間 道 子	
企画財政部長	斉 藤 元 彦	
市民環境部長	金 子 優	
福祉保健部長	樋 口 賢 二	(代理出席)
産業観光部長	佐 々 木 正 雄	
建設部長	田 畑 孝 雄	
教育委員会教育次長	藤 井 武 雄	
消防長	加 藤 貴 一	
選挙管理委員会事務局長	藤 井 雄 一	
企画財政部副部長(財政課長)	山 本 充 彦	

事 務 局

総務部行政改革課課長	佐 藤 金 満
総務部行政改革課課長補佐	清 水 忠 雄
総務部行政改革課行政評価係長	加 藤 留 美 子
総務部行政改革課行政評価係主事	長 尾 啓 介
総務部行政改革課行革推進係長	丹 下 高 晴
総務部行政改革課行革推進係主任	北 見 太 志

4. 会議内容

1. 開会

2. 議事

1) 施設整理について

今年度、処分に係る予算要求額のヒアリング結果について  
見直し結果の公表について

2) その他

行政評価について

組織について  
交付金制度について

3. 閉会

会 議 録 ( 要 約 版 )

1 開会

2 議事

1) 施設整理について

今年度、処分に係る予算要求額のヒアリング結果について

【丹下係長】

12月補正で整理をする施設については、25件で総額1億1千万円弱となりました。今後、各課で条例の改廃、補助金の処分に係る手続き等を進めていただきたい。

【斉藤総務部長】

各課で条例改正、所定の手続き、予算執行はお願いしたい。

【親松副本部長】

条例提案は何月に出すのか。

【斉藤総務部長】

12月です。

見直し結果の公表について

【丹下係長】

現在、公共施設の見直しの方向性について、公表に向けて整理をしています。作業が終り次第、各部局へ回覧しますので、最終確認をお願いします。

【斉藤総務部長】

いつ公表することになるのか。

【丹下係長】

今月中に公表したいと考えています。

2) その他

行政評価について

【加藤係長】

施策評価結果を予算編成に活用しました。それぞれの施策表を共有書庫に保存しますので、それらを参考に事務事業の選択をお願いしたいと思います。

【親松副本部長】

政策経費は加味されているのか。

【加藤係長】

はい。但し、ハード部分の経費は決定していませんので反映されていません。

【斉藤総務部長】

ご不明な点は行政改革課までお願いしたい。

## 組織について

### 【清水行政改革課長補佐】

次年度の支所組織については、その他支所を出張所とし、窓口特化で現場対応については、本庁、或いは拠点支所で補うということにしたい。名称は 行政サービスセンターという名称にしてはという案です。また、動き易い体制ということで課制を廃止し、管理職の所長、次長を配置し、係は市民生活係に一本化ということです。人数は最低9名を考えています。これについてご意見いただきたい。

### 【斉藤総務部長】

次年度は課制を廃止し、グループ制にして窓口の特化しようということである。議会からも意見が出ており、一步踏み込んで横断的な課題解決に取り組む組織の新設、世界遺産に対する業務拡大の人員増、国体等の増も考えられるので本庁も人員減は避けられない。そういった中で支所の組織は大幅に変更となるが、ご意見いただきたい。

### 【親松副本部長】

ポストが余ると思うがそのあたりは考えているのか。

### 【清水行政改革課長補佐】

ポストにこだわると今回提案した組織では吸収できないので、同格の役付きを考えないといけません。

### 【斉藤総務部長】

ポストは別の形で考えなければいけないが、まだ検討されていないということである。拠点支所は総合的な支所機能を持たせ、それ以外の支所については出張所とし、窓口サービスに特化した形でどうかという提案である。

### 【甲斐副本部長】

支所機能は市の総合計画の地域エリア振興を考えるのが支所で、市民サービスとは違うと思う。例えば総合計画との関連はどういう位置付けで考えているのか。

### 【佐藤行政改革課長】

総合計画に対しての考え方ではなく、本庁の補完機能と考えています。

### 【甲斐副本部長】

補完機能というのが何かということもあるが、羽茂は南部郷の地域の活性化をするのが羽茂支所であって、それと市民サービスは違う。その違いが明確でないと、人数を削るだけでは、おかしくなるような気がする。支所はそういう役割を担ってもらうのが良いのではないか。

### 【佐藤行政改革課長】

そのようにすると、支所の体制を強化するようなことにはなりますが。

### 【甲斐副本部長】

頭脳さえあれば強化しなくて良い。

### 【斉藤企画財政部長】

それは支所に企画的な機能を持たせるということですか。

### 【甲斐副本部長】

南部全体ではどうやって地域の活性化を図るかということ羽茂支所で行い、それを本庁とやり取りするといったことを支所機能を持たせられないか。

【齊藤総務部長】

支所はできるだけ縮小し、本庁から佐渡全体を目配りしていく方向で進めてきました。

【佐藤行政改革課長】

合併当初は副市長の言う方向性もあったように思いますが、指揮系統が機能しないということもあり、本庁集中型の方向性を進めております。

【甲斐副本部長】

分りました。

【齊藤総務部長】

支所機能が縮小すれば、その分を本庁がカバーするという事です。

【甲斐副本部長】

本庁に集約するのも良いが、例えば両津に支所長がいるのだから彼の権限で両津一体の活性化を図って行くというようなことを行えば、3支所で競争ができる。それを本庁の各支所の担当者が把握していくというような仕組みを作ったらという感じがする。

【齊藤総務部長】

人的に余裕があればそういった形も大切だと思います。各支所にどこまで権限を与えるか検討が必要だと思います。

【金子市民環境部長】

行政サービスセンター部門と南部の統括部門の人数に色分けがあると良いのだが、このままでは分りにくい。

【清水行政改革課長補佐】

羽茂支所の職員数の構成は、窓口業務に特化した場合の基本ベースを作り、そこへ南部を統括するに当たっての必要人数を加味した数字になっています。

【親松副本部長】

本庁の中に金井の分が入っているというイメージか。

【甲斐副本部長】

そういう疑問が出てくるわけだから、支所機能と市民サービス機能というのは分けて考えなければならぬ。

【清水行政改革課長補佐】

実際に羽茂支所37名という数は、その他支所ベースの12名を引いた25名が南部地区を見る人数として上乗せをしています。

【齊藤総務部長】

25名が支所機能を果たすということです。

【清水行政改革課長補佐】

それを今、一緒のような形で使っているということです。

【齊藤総務部長】

その辺りの部分が他の支所から見ると全く同じ仕事をしているのに、なぜ羽茂支所は人数が多いのかという話になっている。

【佐々木産業観光部長】

行政サービスセンターは本庁市民環境部、支所は総務部にぶら下がるということであればスッキリするような気がする。

【親松副本部長】

それも大事だが、人事係と突合をやった方が良い。ポストが無くなるから人事係でも困ると思う。人事係で問題無しであれば更に進めることにしたらどうか。

【齊藤総務部長】

今ポストの不足部分については、担当というような形にしたらどうかと考えています。

【親松副本部長】

それが可能ならそれでも良い。

【齊藤総務部長】

このあと人事係、法規係とも協議しながら再度詰めるということによろしくお願いします。

#### 交付金制度について

【丹下係長】

行政事務改善委員会第3分科会で地域交付金制度の検討を進めております。地域対象の補助金、委託料、報酬をまとめて地域に交付し、行政事務の簡素化と地域の自主性を促していけないかということで検討しています。ある一定の方向性がまとまった時点で、改めて報告させていただきたいと思います。

【本部長】

行政区でその能力を持てるだろうか。限界集落などでは無理ではないか。

【親松副本部長】

集落で配分して好きなように使ってと言ってもなかなか難しい。それでも継続して検討してみてください。

【齊藤総務部長】

モデル的に仕組みを作って進めてみようという案もあります。

本日の会議はこれで終わりにします。

### 3 閉会